

菅野 芽衣

KANNO Mei



こつこつ、きらきら、くるくるる…

樟、ヤマザクラ、岩絵具、オルゴール

## こつこつ、きらきら、くるくる…

とおくの世界へ想いを馳せることをテーマに制作をしている。  
水平線を眺めているとき、きらきらした素直な気持ちになれる。そんなふう  
どこまでもとおくに連れて行ってくれるような存在をつくっていきたい。

修了制作である本作はとおい世界への入り口をイメージしている。  
木彫オルゴールは日常生活を別の世界へと繋ぐ小さな扉だ。  
普段の暮らしの中になにかひとつ素敵なものをみつけると、さらに探してしまう。  
“きらきらした気持ち”は何かを探ること＝追いかけることから生まれるのである。

作品に登場するいきものは自分の知らないものを知っている、どこかとおくの世界から  
の案内人だ。その姿や行動はどんな世界からきたのか、そこにどんな暮らしがあるのか  
を教えてくれる。

作品の案内人はラッコだ。銀色の毛並みは長寿の証、海底で狩りをする姿は探求者を  
思わせる。貝を割るために道具を使い、食べこぼしで体毛が汚れてしまわないよう、  
回転しながら食事をする…その賢さ、手先の器用さはいきものの中でも上位だろう。  
クジラやアザラシのように海に適応しきった体を持たないラッコは海で暮らすために、  
知恵と技術をこつこつと蓄え、磨いてきたのだ。  
そんな探求者の姿を追いかけていきたい。

ラッコたちはオルゴールの中で、互いを追いかけてアーチを潜る。こちらを追いかけてこに  
誘っているのか… 日常の中にきらきらひかるものをラッコに習って探してみる。  
みつける、さらに探す、みつける、また探す… そんなふうにくると、ひかるなにかを追  
いかけながら、きらきらした素直な気持ちになっていけたらとても素敵だ。